

# かみさと



学校教育目標  
豊かな心もち  
他のために行動できる子  
やさしく かしく  
たくましく

- ㊦んがえて行動 ㊦んなにあいさつ  
㊦そい合って働く ㊦もだちを大切に

さいたま市立上里小学校 学校だより

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006

さいたま市岩槻区上里2丁目2番地

令和4年2月1日(火) 2月号

TEL048-794-2316

## 雪の日の忘れられない出来事(2年生の頃②)

校長 梶山 崇

寒い日が続きますが、子どもたちは寒さに負けず、今できることをがんばっています。

さて、今月は私の2年生の頃の出来事を紹介させていただきます。令和2年度学校だより9月号でも紹介いたしました。1年生まで母の手を握って離さなかった私が2年生になり、自我に目覚め、世間一般から見れば、望ましくないことを2年生の頃にすることが昨日のこのように思い出されます。懺悔したい気持ちです。

私は2年生の頃、東京都世田谷区に住んでいました。当時(昭和40年代後半)は、まだまだ畑が点在していて、のどかな風景も見られました。乗り物が好きで、当時子ども料金が20円だった路線バスにも何度か乗り、最寄りの駅まで趣味としていたプラモデルを買いに行っていました。私は突然やりたいことがあると、我慢できずにやってしまうことがあり、両親を困らせていました。東京にめずらしく雪が降った日、私は急にプラモデルを見に行きたくなり、最寄りの駅までバスに乗りました。母には「友だちといっしょに行く」と言って、出かけました。雪のため、道路は大渋滞で通常20分くらいで最寄り駅に着くところが、2時間くらいかかったと記憶しています。学校が終わってから行きましたので、最寄り駅に着いたときには、すでに暗くなっていました。駅に着いてから私は母に公衆電話で「大丈夫、友だちもいっしょだよ」と言いました。でも、私はさすがに心配になり、プラモデルも見ずに、すぐに帰りのバスに乗りました。帰りも行きと同様、道路は大渋滞で、母が心配して当時幼稚園の弟と一緒にバス停まで迎えに来てくれていました。帰宅後、母からは帰宅が遅くなったことをもちろん叱られました。私にとって怖かった父からは叱られた記憶はありません。父から叱られなくてよかったと内心思いました。それでも私はこのことが怖い思い出となり、それ以来、小学校5年生になるまで一人でバスに乗ることはしなくなりました。

実はそれから15年ぐらいたって、家族との食事中、父母から思い出話として、このときのことが話題に上り、友だちと一緒にいったことは嘘だったことは父も母も知っていたこと(母がその日友だちの母に電話で確認したそうです)、夫婦で話し合い、この子はこのままだと心配だとずいぶん悩んだそうです。しかし、そのときは父の判断で強く叱責することはせず、様子見ということになりました。

次の年、私が小学校3年生になった頃、引っ越しをすることになりました。引っ越し先の候補として、神奈川県秦野市も上がりましたが、私の行動も考慮して、祖父母との同居も選択肢の1つとなり、結局、埼玉県大宮市に住んでいた祖父母と同居するという形となりました。大宮に引っ越してきて最初は戸惑いましたが、毎日暗くなるまで友だちと野球や外遊びをしました。振り返ってみると、親をだましたつもりが実はすべて知られていたことが何度もあったことがあとになって分かりました。

いつも思うのですが、私よりも上里小学校の子どもたちの方が、はるかに分別がついていると思っています。みなさまが悩まれたとき、私のような子どもがいたことを思い出していただければ幸いです。今月も本校の教育活動にご支援をお願いいたします。